「市長と語ろう！」 in 砂川学習館【概要】

平成29年９月30日（土）
10時00分～11時30分
砂川学習館

１　開会の挨拶

（市長）

こんにちは。本日はご出席いただき本当にありがとうございます。

立川のまちというのは、今までハードな面、道路づくりや立川駅でいうと南北のデッキでありますとか、象徴的なのは南口の区画整理です。南口地区の区画整理というのは52年ほど前に始まりまして、一昨年終了しました。

当時、市内地の真ん中を区画整理するというのは初めての試みでした。木造の住宅、あるいは店舗が密集している南口地区を、劇的に区画整理をして道路の整然とした街並みをつくり上げました。それがベースとなって、南口の駅前広場もできましたし、もっと劇的なのは北口です。基地跡地の中にモノレールが南北に連なる。これが劇的に立川のまちの発展のための大きなエンジン、活力になっています。

今まで続けてきたハードな部分でのまちづくりがほぼ終わりが見えてきました。やぎを離していた原っぱが、約４ヘクタールあります。そこに音楽ホールやホテル、そして一番南の駅に近い部分は事務所棟を建てる。今、憩いの広場の横にたましん本店がありますが、老朽化して新たに緑地区、４ヘクタールのところの一番南のほうの部分にたましん本店を新築する、そういったコンセプトで今最終的な調整を市の開発担当部門と行っていまして、そろそろ着工のスケジュールを決める状況になっているそうです。おおむね立川のハードの部分のまちづくりはおしまい、ということが見えています。

それでは立川の発展、充実のための中心的な施策は何かというと、やはりソフトです。教育、子育て、高齢社会対応。こういう部分のソフトな施策対応をしっかりやっていくということで、ハードなまちづくりからソフトなまちづくりの方向性へと今、カーブを切りました。今年の予算はほぼ前年にのっとった子育て重視でありますとか、地域包括センターの充実にみえるように、高齢対策、これらの方向に市の行政の方向性をシフト、変更になってきているということで、第４次の長期総合計画の中に盛り込み、しっかりとソフト対策をやっていきたいと思っています。

基礎的なものは何といっても税収をどれだけ確保できるかということでありまして、そのためにはできるだけまちのにぎわいを、文化面の交流などでにぎわいを高めることによって個人税収のアップ、あるいは多くの来街者を立川に迎える方向で経済の部分は何とか頑張って稼ぎ出していこうという思いでございます。それによって各種のソフトの施策を充実させていきたいと考えております。

今日はせっかくお見えいただきまして、普段から疑問に思ったり、あるいはご提案のあることをご披露いただいて、行政の一助にさせていただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

２　意見交換

（参加者）

大山では13年間孤独死ゼロ作戦で、18年間の自治会活動の中で達成できたということは、市民の力だと思っておりますし、行政の協働する力も借りて孤独死ゼロをメインにして協力いただきながらやってきたのですが、今年になって２件発生しました。東京都が必ず入居するときは自治会の会長、事務所に届出を出してくださいと言われているのですが、いわくつきの特別な扱いで入ってきた人が、市との契約、市との連携で入ってくるので、入ってきた人もわからなければ、お知らせもないです。市は知っていても、個人情報だから教えられないということですが、その知らない人が２件亡くなりました。

私たちは見守りネットワークを強力な姿勢で、必ずゴミ捨てボランティアがあったり、介護のボランティアさんがいたり、食事を届けるボランティア、いろいろな高齢者の方の手当てをしながらやってきて、孤独死ゼロ達成まで５年かかりました。それから10年連続で孤独死ゼロというのが続けられたのですが、今年になって２件孤独死が発生しました。自治会の中に入ってきたら見守りするのは私たちなので、名前を教えられなくても部屋に入りました。民生委員さんも知らなかった。地域に住む高齢者にとっては、どのような対策をこれからしていかなくてはいけないのかということです。

孤独死が２件続いたので、私たちは遺憾に思いました。何十年もかけて、皆さんに周知をさせて本当に毎月毎月、自治会だよりの中にお知らせをまめにやってきた中で、行政によって何か潰されてしまったかなという、違和感もありました。それが協働と言えるか、ということです。自治会の中に入ってきたら、みんなで助け合うという気持ちを私たちは持っているし、情報を漏らすなんていうことはないので、信じてもらって、民生委員さんなりに対応策をお願いしたら、孤独死なんかなかったと思います。高齢福祉課と地域とのあり方、民生委員さんと包括センターのあり方、信頼関係というものが、何か私は崩されたような気がしました。

（市長）

民生委員もそういう入居者がいたのを全く知らないということは、行政のミスです。高齢福祉課の対応が少し甘かったと思います。民生委員も知らなかったというのも初めて知ったのですが、少なくとも民生委員が最前線で努力をしている中で、生活に困ったり、あるいは独居が入居するなどという情報というのは、最低民生委員にだってお知らせしなければ、やる気がなくなります。

少なくともこれは行政のほうの、配慮が足りなかったと思いますので、改めて見直しをしていきたいです。

（参加者）

要介護、支援という形では防災課と協定を結んでいます。これまでは300人以上要支援です。その人が守れなかったということが、すごく残念でした。孤独死の２件に対して、１件はヘルパーさんが関わっていますが、ピンポン押したら返事がなかったから帰ってしまって、市のほうにもどこにも連絡していません。その後、おかしいねというので、急きょ民生委員さんが動きなさいという指令をして、亡くなっていたということが判明されました。ヘルパーさんがどこかに連絡をして、早めに対策がとれていたら、絶対に命は救われていたと思います。そういう連携の仕方が今、怠っております。ヘルパーさんと市の契約、ヘルパー指導、業者への指導がなっていなかったために、その命を１日放りっぱなしにさ

れていた中での出来事だったので、ヘルパーさんがどこかに連絡体制がきちんとやっていればよかったかなと思います。

例えば、私たちはいろいろな業者にいつでも対応できるように、私の携帯は24時間対応です。そこまでしながら孤独死を出して見守れなかったということは、私たちにとってはとても悲しい出来事だったので、そのヘルパーの仕事に対する、業者への指導も徹底していただきたいです。

（市長）

実は昨日も、肢体不自由の子供を介助する介助員の連絡の取り方が全くなっていないということで、事故にあってしまった子供さんがいました。その介助員は委託に出して、委託に出した先から人選をしてつけるから、役所のほうでは全然知りません。どういう人材がその介助員になって、その介助員はどういう子供の面倒を見ているかということも、全く把握していない。

その介助員が少し子供の面倒を見るのをさぼっているというお話があり、そのヘルパーの難易はどこにあるか、ヘルパーの報告はどうする、その報告は誰がどうチェックして、どう判断をするかという、組織的なものができていなかった。行政の体制が足りない部分が出てきているのではないか。市民からのSOSが多岐にわたってきており、市だけで全部対応できないから、委託に出すわけです。ヘルパーそのものをチェックする体制ができていれば、チャイムを鳴らして帰るようなことは絶対にないわけで、見直しをきちんとしなきゃいけないと思います。

（参加者）

子供が生まれてもうすぐ１歳になります。今までは練馬区に住んでいて、この度、居を構えましてこちらに引っ越してきました。立川に何で家を選んだかというと、今までにない人気、行政やまちのきれいさ、住みやすさが、周りからの評判もとてもよいし、子供を育てる上でもきれいに整備されたところで、のびのびとできるということも含めて、最終的に考えて立川市がいいなと思い、越してきました。

今回市長さんとお話が直接できるということで、どんな方でどんな考えを持っておられるのかなというのがとても気になって、興味があってきました。実際住んでみて、今、７カ月ぐらいですが、児童館とかも結構充実していて、暮らしやすい部分もあります。この辺に住んでいるからというのもあるとは思いますが、交通の便というか、道はすごくきれいで整っていますが、子連れでいっぱいイベントがある駅周辺のほうに出るというのは、結構大変で、くるりんバスがあるというのは不動産屋さんからとかも聞いていましたが、あまり利用する方がいらっしゃらなかったのか、立川駅に行きたいのに、くるりんバスで行くと、武蔵砂川駅経由の玉川上水モノレールに行き、モノレールから立川ということになる。バスで行き来すると、結構お金がかかってしまう。駅前も車がとめられるところも限られ、駐車料金もかかってしまう。いろいろなイベントがあって行きたいのですが、出かけるのに少し億劫になることがあります。

これからファミリー層が増えていくと思いますし、ご近所のお年寄りの方とよくお話しするのですが、駅に行きづらいというのはよく言われていますので、交通の便で、くるりんバスの見直しをしていただけたらなと思います。

皆さんいい人で、結構席も譲ってくれるのですが、ベビーカーを持って乗るのは遠慮す

る方も多いです。やはり車を持っていないと生活できないなというのは正直あります。

（市長）

くるりんバスは今、市内５ルートで、市内の基本的には交通不便地をカバーしようということで運行しています。当然利益の出るような方法ではありませんで、大体料金をいただいて、税金で負担しています。１時間に１台しか立川バスが通っていないところも結構あり、そういうところへ優先的に運行させています。

（参加者）

このご時世、この子も待機児童で、家計的にも出かけるのにすごくお金がかかるというのはみんな言っています。赤字経営はとても苦しい状況というのはよくわかるのですが、税金も払っているので市でカバーできるところは交通不便以外にも楽しめるようにしてほしいです。

（市長）

くるりんバスについては全市どこに行っても要望が出ています。そんな状況を逆手にとって、今はスーパーマーケット等が買い物用の無料バスを出しているようです。大きな課題として捉えさせてもらいます。不便な地域、あるいは不便な地域でなくても、お子さんを抱っこして乗るのに満員バスというわけにはいかないという意味はよくわかります。

（総合政策部長）

くるりんバスについては、不便地域ということでルート設定していますが、昨年の秋からルート変更して５ルートにしています。砂川ルートは収支率が悪く、実際にご利用いただいている方も少ないという大きな課題があります。希望にかなうかどうかはわかりませんが、担当のほうではルート全体の見直しをもう一度考えていますので、もう少し状況を見ながらご意見をいただければと思います。

（参加者）

くるりんバス事業ですが、これ以上市で続けていくのはちょっと難しいと思います。くるりんバスでやっている路線、これもくるりんバスの車両を使った民間路線バス等に一元化するのが望ましいと考えます。

第一に、立地条件です。バスというのはまとまった数のお客様が安定的に確保できなければ維持ができません。立川の市内では、一部の地域で昭島駅、国立駅へという流れはありますけれども、基本的には立川駅へ向かう路線以外は定着しない。実はほとんど民間の路線バスでもうカバーされていて、くるりんバスでカバーできるような、それだけの需要があるところというのは、もう残されていないということです。

２点目として、道路が狭くて一般の路線バスが入っていけないようなところに対して、今はなかなか認可がおりないです。女性総合センターから武蔵砂川駅への路線は、結局民間の路線バスとの競合区間だということを理由にして廃止されてしまいました。ただ、このすぐそばに、大きなＳ字カーブがあり、ここをくるりんバスが通ると、反対の車線にはみ出したりして危ない状態で、これに対する苦情が絶えなかったという話も聞いています。今のくるりんバスの車両は、以前の車両よりも大きめで、認可が下りづらくなっているという事情はあります。

一方、これとは逆説的ですが、最近車椅子やベビーカーのお客様が大変増えていますが、くるりんバスが走るような道の狭いところは、実は車椅子の取り扱いはできない停留所が

多いです。現時点では道路の整備などを待って、路線バスを通していただくように、市のほうにも頑張っていただく以外にないかと思います。

３点目は収支の問題です。一般の路線バスはシルバーパスが使えます。シルバーパスは東京都のシルバーパス交付金から各バス事業者さんに配られるもので、結構大きな割合を占めます。ところが立川の場合、担当者や議会のほうでもバス協さんのほうに申請しているそうですが、もう今後一切、その新規加盟は認めないということで、シルバーパスの交付金というのはいただけません。このシルバーパスの交付金は、結構大きなもので、私が以前勤めていたバス事業者では、年間収入の10％から11％、これをシルバーパスの交付金が占めていました。これがいただけないということは逆に、くるりんバスにとってそれだけでも大変なハンディですし、国立市のくにっこバスはシルバーパスが使えますが、実は直近の調査で49％がシルバーパスの方のご利用だそうです。

そして４つ目。市役所と民間との役割分担です。福祉にしても何にしても、行政でなければできない仕事と、バスのように、民間でできること。民間に任せた方がいい仕事というのはありますが、やはりくるりんバスのほうでは限られた職員の方々を回していただくよりは、そういう職員の方の余裕があれば、福祉関係、本当に行政でできないそういう部門のほうに回していただいて、充実することが必要かと思います。

これに対して幾つか関連するようなニュースとして、総務省、内閣府が行政のスリム化を行っています。特に収支の改善などが望めないものは廃止や民間売却あるいは近隣他市との協働事業でやることを促進します。市職員の方々の過労防止のためにも、ある程度市民サービスの低下というのは、これはもう犠牲にしてでもやはりそれは進めていきたいということでした。民間でできることは民間に任せて、くるりんバス事業も民間に任せて、その分の人材を必要としている部門のほうに振り分けて、市民サービスの低下は避けていただきたい、ということをお願いしたいと思います。

（市長）

今、採算の取れないものは民間に任せてという話がありましたけれども、くるりんバスに関しては立川の場合は交通不便者が多いものですから、ある程度税金を使ってもくるりんバスはやっていかなければならないなというのが私の方針です。民間でしたらもうからないことはやらない。もうからないところへ行政が何とか出していかないと、本当のところの解決ができないという類の事業です。せっかくご意見いただきましたけれども、くるりんバスは将来的にも続けていきたいと考えておりますので、ぜひご承知おきをいただければと思います。

（参加者）

くるりんバスというのは、立川バスの上水車庫で運行をお願いしているわけですが、同じようなところを同じ会社でやっていても、くるりんバスと民間路線バスと、車両や運転手さんを別々に手配すると、実はそれだけでもかなりお金がかかってしまいます。特に立川の場合は、既存の民間路線バス、可能な限り経路変更や回送車の営業などで対応するのが望ましいです。民間路線バスに一元化すれば、その事業者さんの工夫でかなりのことができるわけですが、行政で全てを手配すると、お金がかかるので、収支構造という点からもそのように思います。

（参加者）
私自身要支援１で、しばらくの間ヘルパーさんに来ていただいておりました。週に１回お掃除に来ていただくのですけれど、知らない人がある日突然、１週間に１回でもやってくるということが病気で体調の悪いときは非常に疲れます。具合が悪くて、鍵を開けるところまで行かれなかったら、ヘルパーさんが当日キャンセルした場合は全額いただきますというのが、契約の時点であります。簡単に介護ヘルパーを、これは便利だなんて思って使ったらむしろ、精神的に疲れる場合がありますので、少しでも状態がよくなって、自分できちんと歩けるようになったら、介護保険は中止したいと思っています。介護保険というのは、皆さんも若い人が一生懸命積んだ税金を使わせてもらっているので、あまりできるだけ甘えてはいけないと、いつもそう思って生活しております。
隣近所の人には、１週間ぐらい雨戸が閉まっていたら、私は一生を終えていると思うので、そのときは騒がないで静かに私が死んだと思っていただくように、周りの人にそう話しています。大山団地のように、しっかりと連携をとっているところは大変いいと思いますが、ひとりで暮しているので、孤独死はやむを得ないなと思っております。
（市長）
困ったときのための介護保険ですから、そのときには遠慮しないでぜひ、使ってください。
（参加者）
私はコードを足に絡ませて、背骨を骨折しました。入院も考えましたが、猫をある程度飼っていたのでペットのヘルパーさんを探しましたが、いなかったです。
（参加者）
地域猫ボランティアというのがいて、地域猫を見守りしてくださる猫対策委員会というのが大山団地にあります。介護を受けられないとか、そういう人のための相談をいつも受けて、その人に寄り添った考え方で相談を受けています。
地域猫といって、猫を増やさない、野良猫を増やさないというので、矯正している人が猫対策をやっています。

（参加者）
子供の広場、垣根を低くしてくださりありがとうございました。そこが市に戻るのはいつぐらいになりますか。子供たちが遊んでいて転んでも外からは見えないです。向こうの国有地の問題もありましたが、お時間もありますので資料をお渡しします。

（参加者）
立川第五中学校のトイレや窓の老朽化が進んでいますが、改修の予定はありますか。
（総合政策部長）
学校の中では大規模改修というのを進めていまして、今年度より３年間の中で、全てのトイレについては改修を行います。

（参加者）
トイレ掃除の業者はどういう業者を頼んでいるかわからないのですが、かなり雑なお掃除の仕方です。業者をどのように選んでいるのでしょうか。

（総合政策部長）
　小中学校のトイレについては、臭いの関係で苦情が教育委員会のほうには寄せられています。大規模改修やトイレの改修で、一定の見た目のきれいさや、臭いの部分についてはある程度解決できると思いますが、具体的な清掃回数については、教育委員会で仕様書をつくり、入札という形で安く落とした業者に決定するということでやっています。なかなか清掃が行き届いていない部分があるということであれば、教育委員会のほうに話をしておきます。

（参加者）
　地域の大会等で使用していますが、５中のプールの下の部分がはがれてしまっています。多くの子供たちが使っているので、来年はぜひプールの改修をお願いしたい。
（市長）
　学校設備の補修は、計画的にやっています。実は教育の予算が全科目の中の、福祉や教育とかいろいろあるのですが、学校の予算は100億を超えて一番多いです。多摩地区の中でもトップレベルの予算がついています。
（総合政策部長）
　トイレやプールの苦情が多い、ある程度リクエストが多いというのは、それは確かですけれども、ほかの市に比べますと教育にかける予算というのは比較して多いと思います。特に各自治体に比べて自慢できるのは、大規模改修というのは10億以上かけて、年度毎に毎年やっています。立川市だけは、９つの中学校と20の小学校について、順番を決めて老朽化対策として大規模改修をしていきます。九小を見ていただければかなりきれいになったと思いますけれども、あのように順番でやっているという自治体はほかにはございませんので、その分を含めて、計画的に立川市は教育に対する予算を投入しているということは確かです。ただ、細かいところで見るとまだ、行き届かないところもありますので、保護者の方や地域の方からご意見を伺いながら、緊急を要するものについては教育のほうで手当てをするという形で考えております。

（参加者）
　今年、中学までに特別支援のお子さんのある程度の支援をしながら、小学校のほうも手厚く、普通の学級ではなく、特別支援の学級のクラスに行く、きらりという教室ができたのですが、そのきらりで終わってしまって、中学に上げるということが、そのままできればいい。そういう行政であると、私たち、現場で出たりしている中では特別支援のお子さんをそのまま、愛の手帳をとるまでにはいかなくても、そのまま大きくしてしまっていいのかなと思います。また、親御さんも、きらりに入れると安心してしまい、中学までに特別支援のほうに行くという形ではないようです。
（総合政策部長）
　特に特別支援学級の必要性というのはここ最近たくさんの児童の方がいらっしゃるということで、特別支援学級は増えています。市としての計画は、松中小に新たに特別支援学級を開設する予定ですが、まだ中学校のほうは行き届いていない部分もございます。

（参加者）

特別支援にお金をかけ、人数だけ増やしても、スクールソーシャルワーカーがうまく機能していないところがあるようです。不登校の子のお宅に知らない人が突然訪問しても開けないと思います。信頼関係を取り戻してからやるということなので、現場に携わっている人に意見を聞いて、スクールソーシャルワーカーの検討をしていただきたいと思います。

トイレや学校施設は、保護者がきれいにすればいいと思います。私が大山小学校に子供を３人通わせたときは、１年に１回、感謝の気持ちで子供たちと保護者が一緒に清掃活動をやりました。上砂センターでは、清掃屋さんが入っていますが、任せっぱなしではなくて、１年に１回、奉仕活動をしましょうと言って、大掃除をすることにしています。

（総合政策部長）

ぜひ市民のほうでムーブメントを起こしてください。それを恒常的にではなくて、今おっしゃられたようにイベント的に、年に何回かやっている学校はあります。

（参加者）

地域をよくするためには、地域が考えなきゃいけないと思います。年間で三十何件かごみのリサイクルの視察に来ています。実際にバケツに触れていただいて、肥料を見ていただいて、肥料を持ち帰る県もあります。私たちは地域をよくするために、子育て支援、高齢者支援のセンターを立ち上げて今年で18年目ですが、最初のうちは高齢福祉課も、社会福祉協議会も包括センターも参加していて、地域の情報交換をしていましたが、今、誰も参加していません。協働するのであれば、お互いの力を出し合って、やれるものとやれないものがあるので、なるべくいい関係でそのアイデアをまとめてやっていくので、そういう形をとれたらいいなと思っています。

これからソフト面では高齢者対策や子育て支援をやらなくてはいけないというのは、痛切に感じております。立川市も高齢化率は高まっておりますが、高齢者対策はたまり場をつくって解決していくということと、元気な高齢者の方に仕事をしていただいて、介護を受けないで元気で生活できるようなシステムづくりを、地域性もあるので、地域で考えることが、これからの時代のやり方かなと思っています。

地域ごとに高齢者対策は地域の層もあるので、行政にだけ頼っているのではなくて、地域でできることを発掘して、やっていくべきだと思います。15年かけてサークル活動をたくさんつくって、高齢者のたまり場をつくって、今はこの学習館をはじめ、全部で180のグループになりました。780人参加しております。それをしないと、高齢者の居場所がないです。独居高齢者を防ぐということは、たまり場と仲間をたくさんつくり上げて、つくり方を教えればいい。全ての団体が参加しながら、みんなで楽しみながらコミュニケーションを図ることが必要で、行政は目が届くところに限りがありますので、行政ができない部分を私たちがサポートする方式を考えていかなくてはいけない。

先ほど、くるりんバスが届かないから、松中団地にくるりんバスを出してほしいと要望がありましたが、松中団地経由でダイエーのバスを利用すれば通過できるので、バスの利用をダイエーと結みました。１日にして４回ピストン輸送されますけど、今は満員です。高齢者は買い物をし、向こうでお茶も飲めるので、コミュニケーションが図れます。立川に行くばかりではなくて、行きやすいところで、みんなでまとまっていけるような方法を地域ごとにつくっていけたらいいかなと思います。

（市長）
　高齢者に仕事をという話ですが、シルバー人材センターも会員が増えません。多摩26市で、今、一番仕事をしているシルバー人材センターは町田のようです。市の仕事を増やしておりますが、それをこなす会員がいない状況のようです。
（参加者）
　シルバーさんに行かない理由というのは、本当は毎日仕事したいのですが、仕事が１週間に２回程度しかなく、遠くまで行って勤めるのが大変という意見をたくさん聞いております。
（総合政策部長）
　年金の支給が大分高くなったので、週に１日や２日ではなく、通常の業務としてある程度やりたいという方も結構増えています。
（参加者）
　生きがいにもなるし仲間ができて、お給料もらうと、じゃあ今日は一杯飲みに行こうかとか、そういうのがいいなっていう感じで、やはり仕事場づくりがとても大事かなと思いました。今日はありがとうございました。

３　閉会の挨拶
（市長）
　どうも今日は本当にありがとうございました。多くの方からいろいろなお話をお伺いさせていただきまして、本当に充実した時間でありました。皆さんのおかげでございます。ぜひまたお聞きした意見等、それぞれ役所の業務改善に役立てていきたいと思っています。
　今後ぜひこういう機会がありましたら、積極的に現場の声を聞かせていただきたいと思います。どうもよろしくお願いします。ありがとうございました。